

―彼等も、元來此團體の古い員であるのであるから、云はゞ同格なる、團體員の親切なる忠告や、諫言や、注意や、は喜んで容るゝてあらう。至誠と云ふ外、經驗のまだ多くない彼等は、参考となる可き事を取入るゝに、決して吝ではない。願はくは、諸君、――皆んなの共有機關である「みづゑ」を、よそならぬ物として、誘導啓發してくれ給へ。本誌の特徴異彩は、常に、此讀者相互間、讀者經營者間の融合一致にある。此特徴を出来る丈發揮し度いと思ふ。

漸くにして、「みづゑ」は、苦しき過渡時代を過ぎて、新生命を得、新時代に向ひ出した。今迄の詮方なき不整頓の御宥しを乞ふと共に、今後の勵精を誓ふ。而して諸君の前に變らぬ御同情と協力とを待つ。

但し新生命に入つたと云ふて、衣服を着更へる様に、變化があると云ふのではない。着實は極端なる急激の變轉を嫌ふ。漸を以て進み度い。こんな事は云ふを俟つまい。

然しながら、着實とは、守株と異なる事を御注意あり度い、溫レ故知レ新――之れは慥に眞理である。然し、故きを温ねるを、唯一に新を知る方法とは主張せぬ。新時代の「みづゑ」は、充分に新しき時代の空氣を呼吸し度い。勿論新しいくとは、徒らに、胡瓜の空花を追ふ愚は學ぶまい。着實に新思潮に觸れ、新傾向を紹介する事は決して怠るまい。此頃、「現代」とか「近代」とか云ふ標識が多くなつて來たが、それは至極結構である。但し、俗に日本で叫んで居る「現代」や「近代」は、餘程、怪しいの

が多い。西の極の歐洲の中心から、東の極の日本まで、響きが傳はるは容易でない。漸く、日本に、かすかに、カインと反響する時分には、歐洲の本場では、他の響きが、新にドーンと鳴り初めて居る。吾々は、翻譯位の葎の髓から傳へられる古臭い「現代」「近代」に満足し度くない。幸ひ、此度の經營者の一人は、外國語に堪能であられるから、新しい「現代」を傳ふる事が出來やう。之を吾人は欣んで告白する。

他に云ひ度い事も澤山有るけれども今は止める。我ながら、冗長な筆、我々が主旨を解して下されば幸いである。

■美人畫展覽會 赤坂三會堂に於いて、本月五日より十月二日

迄一週間、婦人を描ける諸種の繪畫を展覽すべしと

■七寶圖案展覽會 藤井達吉氏の研究になれる全圖案畫を近日

中に展覽に供すべしと

■本誌の賛助員 たる中澤弘光、三宅克巳、岡野榮、小林鐘吉、

の諸氏並びに跡見泰氏、杉浦非水氏の發企になれる覽展會を  
本月中竹之台陳列館に於て開催せらるべしと聞く

■敬助青楓畫會 黒内清輝、上田敏、高村光太郎三氏の發起に  
なれる柳津田兩氏の作品を頒つ同會は其后中々の盛況なりと